



モビリティ・デザインの実践

The practice of mobility design

バリアフリー班

視覚障害者(15人中11人回答)

- もっと多くに駅にホームドアを設置してほしい。
- エレベーターやエスカレーターに音声案内をつけてほしい。エスカレーターの方にも点字ブロックをつけてほしい。
- 駅員の安全確認と存在の周知(人員確保と障害者への想像力を働かせること)
- 切符で通過できる改札の設置してほしい。
- 声かけサポートの充実してほしい。
- 改札前に障害物を置いたり、点字ブロックすれすれに柱を立てたりすることをやめてほしい。
- 時刻表の文字を大きくして目の高さにしてほしい。

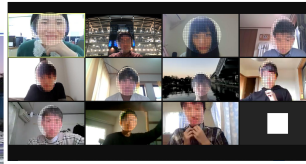
聴覚障害者(7人中1人回答)

- 新しい電車を増やしてほしい。
- 電光掲示板は同じ内容を繰り返すのではなく、最新情報も流してほしい。



モビリティデザインの学びと実践
ルアンパバン班

未来のバス班



羽沢横浜国大駅アクセス班

都市交通デザインの提案を通じて、人々の移動を、まちをより豊かに

Pursuing the various mobility and the wealthy city by the urban traffic design

モビリティ・デザインの実践では、人々の移動のしやすさ、すなわちモビリティを総合的にデザインする考え方について、具体的な地区での改善提案活動を通じて学ぶことを目的としている。これまでの交通計画や都市計画に関する講義および演習の中で十分には培われなかった、まちづくりと移動環境のつながりや、交通手段間の連携などについてのプランニングマインド感覚を身につけるべく活動を行っている。

本実習ではテーマごとに班単位で活動を行っており、2020年度は以下の4テーマを扱った。各班で週1回以上Web会議や調査を行い、学内で行われる報告会(今年度は年2回)および学外における地域の方々や企業に向けた発表会を通してその成果を披露している。

テーマの一部は2021年度も継続を予定しており、加えて新たな課題にも着手する予定である。

- ①障害のある方の移動実態に関する調査
- ②ラオスの観光都市ルアンパバンの実態調査
- ③未来のバスの在り方に関する検討
- ④羽沢横浜国大駅からの大学アクセス向上施策の検討

■学生：34名(中村優真, 瓜生幹久, 宮内爽太, 白岩元彦, 入江遥斗, 渡邊瑛大, 梶谷拓未, 権頭望夢, 小野寺菜乃, 神谷奈那, 石井良依, 船山真里, 千葉智生, 山田樹央, 光永安由人, 宮谷遼司, 高階寛之, 熊谷礼城, 増田夏海, 三橋諒子, 平栗朋佳, 大和太仁, 池田明里, 秋朝玲香, 坂下彩香, 小林励, 佐久間麻衣, 龍野杏奈, 池田恵人, 岩沢誠, 藤木優加子, チンティタオ, 三宅佑, 蔣羽晨, 池谷風馬) / 担当教員：中村文彦, 松行美帆子, 田中伸治, 有吉亮

■連携・協力：特定非営利活動法人 神奈川県視覚障害者福祉協会、公益社団法人 神奈川県聴覚障害者協会、公益社団法人 全国脊髄損傷者連合会 神奈川県支部、諏訪春菜(広島大学職員)、Souphany Heuangkeo(ラオスMinistry of Public Works and Transport)、相鉄バス株式会社

■活動地域：横浜国立大学周辺(今年度は学外現地調査が敢行不可であったため)

■サイト：横浜国立大学 交通と都市研究室 <http://www.cvg.ynu.ac.jp/G4/MD>